

機関番号：32689

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2007～2010

課題番号：19520316

研究課題名（和文） 唐代著述考

研究課題名（英文） The Verification and Research of Tang Dynasty Publications

研究代表者

孫 猛 (SUN MENG)

早稲田大学 法学学術院 教授

研究者番号：00298093

研究成果の概要（和文）：

本研究は、国内外において、唐代著述と関係研究資料を幅広く調査・収集・整理し、経部・史部・子部・集部の四部にわけて、各著述の成立・構成内容及び著者の履歴などを究明し、解題を作成している。

研究成果の概要（英文）：

This research is conducted by collecting, verifying and classifying Tang Dynasty publications and related materials widely from both domestic and international resources. The primary goal of this research is to provide a comprehensive study of four categories'(Jing Bu, Shi Bu, Zi Bu and Ji Bu) historical origins, contents and authors' biographies.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007 年度	1,300,000	390,000	1,690,000
2008 年度	700,000	210,000	910,000
2009 年度	600,000	180,000	780,000
2010 年度	700,000	210,000	910,000
年度			
総計	3,300,000	990,000	4,290,000

研究分野：中国語・中国文学、中国古典文献学、書誌学

科研費の分科・細目：各国文学・文学論

キーワード：

(1) 中国古代文献学。(2) 唐代著述。(3) 奈良平安時代漢籍。(4) 国際情報交換。

## 1. 研究開始当初の背景

唐代は中国の文化が最も発展した時期であり、様々な種類の著述が著された。しかし、その後千年以上を経過した今日では、完全に保存された形で残っているものは極僅かであり、多くは残巻か、あるいは散佚してしま

っており、そのすべてが世に知られているというわけではない。現在に伝わっているものでもしばしば後人の手が加えられ、散佚してしまったものは他書にその記載や逸文が載せられているだけでなく、更に後代の人々が唐人に仮託して書いたものも世に流伝し

ている。唐人の著述に関するこのような混乱状況は、各種の学術研究に、その文献利用の面において少なからず過誤を生じさせているのが現状である。このほか、近代以降、新たに発見された唐人の著述も数多くあり、中でも日本に存する漢籍と敦煌・トゥルフアンなど発掘文書はその最たるものであって、最近ではその方面の研究も間々見られるが、やはり系統的な集大成を見るには至っていない。

清代の学者は各王朝の典籍研究を重視し、各時代の著述及び関係目録に対して考証と補正を行い、大いに成果を上げた。例えば、漢代から隋代の著述に関しては、すでに姚振宗や文廷式などが各時代の芸文志の補正を行い、また章宗源と姚振宗はそれぞれ『隋書経籍志考証』を著し、各書の内容や伝本の有無について系統的な考察を行った。更に、近年日本の興膳宏・川合康三が『隋書経籍志詳考』を著し、唐代以前の著述の基本的状況が明らかになったと言って良い。しかし、唐代の著述については、その難度が比較的高いことから、唐代以前の著述研究業績と匹敵するようなものがこれまでほとんどなかった。

この百年来、唐代の哲学（経学・諸子学・宗教学など）・歴史・文学・言語・文化研究・敦煌・トゥルフアンなど発掘文書および唐代の著述についての個別研究は、20世紀における中国学のなかでも際だったものといえるが、しかしながら一時代の著述を総括した著作は、これまで出ていない。このことから、唐代の著述を研究すること、すなわち唐代の著述を網羅し、正確な考証を附した『唐代著述考』を編纂することは、中国学における急務であり、研究者の希求するところである。

## 2. 研究の目的

本研究は、唐人の手になる各文献を搜索し、

その来源を遡って考証を行い、現在に伝わるものはその流传過程と伝本の優劣を明らかにし、散佚してしまったものについてはその大凡の内容と逸文の所在を明らかにする。すなわち、

(1)唐代の著述及び著者に関する関係資料及び研究成果を綿密に調査し、隈なく取り入れている。

(2)資料に科学的な考証を加え、唐代の著述及び著者を最大限に逐一究明している。

(3)一時代の典籍を準備することにより、中国学の国際的な研究に対して、完全で信頼のできる、唐代の著述についての考証を提供する。

## 3. 研究の方法

(1)収録範囲：『唐代著述考』の収録範囲は以下の通である。①上限は紀元618年(唐高祖武徳元年)唐王朝建国、下限は紀元907年(唐哀帝天祐四年)唐王朝終焉とする。②専著・専集(逸文も含む)のみを収録し、完結しない単編の文章・文書・欠題写巻などは収録しない。③唐代の著述は、原則的には唐の時代にすでに完結しているもののみ収録する。また、後人が改編または改題したものについては付録として収録し、区別する。④佛典・道敎典文献は著述のみ、それ以外の経巻及び訳経は収めない。すなわち、収録範囲を、唐王朝その時代に絞り、唐代の人の手になる全ての専著・専集を広範囲に搜集・整理し、この『唐代著述考』を作成している。

(2)調査範囲と研究内容：本研究の重点は唐代著述及び関係著者の調査・考証に置かれる。本研究は関係研究者の協力をいただき、日本国内外において関係資料を幅広く収集する。この作業は研究期間(平成19～22年)においては始終一貫して行われている。調査範囲は以下①～⑤を含むものである。①唐代及びその以降の中国・日本・朝鮮などの公私目録及

びその関係研究書；②本研究に関する中国の経典・史書・諸子書・文集・詩集・総集・地方志・墓志・石刻・敦煌文献・トゥルファン文献・類書・叢書・譜牒・仏典・道教典・史料価値のある随筆など；③本研究に関する日中両国の出土文献及び古文書；④本研究に関する研究書及び論文；⑤その他、本研究に関連するデータベースを利用している。

本研究及び『唐代著述考』の内容は唐代著述については、①各著述の成書経緯とその構成内容、②各書の真偽、③各書の流传状況(存・佚・残・不明)と伝本、④該書に対する前人の研究成果及び意見などが含まれる。唐代の著者については、①生卒年、②籍貫及び郡望、③登第及び任官、④主要活動、⑤著述などが含まれる。

#### 4. 研究成果

(1)国内外において、本研究に関する漢籍・研究資料を幅広く収集している。

①本研究に必要な基本図書・資料を収集し、資料整理を行っている。

②唐・宋代の典籍(中国の経典・史書・諸子書文集詩集・総集・地方志・墓志・石刻・敦煌文献・類書・叢書・譜牒・史料価値のある随筆など)に現れる唐代の著述に関する記述を調査している。

③日本・中国・アメリカにおける唐代の著述を調査している。研究に必要な基本図書・資料を収集し、資料整理を行っている。

④日中出土古文献を調査している。

⑤近代以降の学者が著した唐代の著述に関する論文・著述を収集している。

(2) それまでの蓄積(主に『日本国見在書目』に関する研究や『日本・中国における唐代の著述に関する総合目録作成のための基礎的研究』の研究成果)を基盤として、『新唐書』芸文志を中心に、関係目録に依拠しつつ、

仏典・道教典書目や敦煌遺書総目なども参考としながら、経部・史部・子部・集部の四部にわけて、各著述の成立・構成内容及び著者の履歴などを究明し解題を作成している。

(3) その解題について各分野の専門家に意見を求めている。

(4) 収集した資料を入力している。

(5) 中国以外の漢籍については、日本に流传したものが最も多く、いまなお日本に大量に存在する。とくに平安時代時代・藤原佐世の撰『日本国見在書目録』が日本の飛鳥・奈良時代から平安時代にかけての漢籍の受容を総括に示すものであり、1579部の記載書のうち、唐代の著述が3分の2を占めており、約1000部の数に上る。この数年間、いままでの研究成果に基づいてこの日本最古の漢籍目録およびその著者についての研究をさらに進めている。

(6) 本研究に必要な設備備品・図書を購入した。

研究は基本的には事前に定めた計画・方法に即して進めており、大部分完成しているが、経費などの原因で今後も継続する必要がある。台湾に関係図書・資料が大量に所蔵されているが、国籍上の問題で、未調査となっている。来年度から大陸の所蔵を引き続き調査する同時に、台湾の所蔵を調査する予定がある。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計3件)

①孫 猛 藤原佐世生平考釋

域外漢籍研究集刊, 査読有, 第5号, 2009, P. 213-258

②孫 猛 日本国見在書目録・刑法家考(六),

人文論集, 第 46 号, 2008, P. 25-46

③孫 猛 『日本國見在書目録』(子部)失考  
書考, 査読有, 第 3 号, 2007, P. 85-199

[学会発表] (計 1 件)

①孫 猛 利用日本文献 開闢新的天地—古  
籍整理研究方法与学科建設芻議(英)  
Seeking a “New Piece of Land” through  
Studies on Japanese Bibliography

第三屆古籍整理研究與中國古典文獻學學  
科建設國際學術研討會 2009 年 3 月

[その他]

ホームページ等 なし

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

孫 猛 (SUN MENG)

早稲田大学 法学学院 教授

研究者番号: 00298093

(2) 研究分担者 なし

(3) 連携研究者 なし